

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 山形市立東沢小学校

① 学習指導案

プログラム	No.11「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全40時間)	東沢のよさ 再発見
学習のねらい	児童がたくさんの人とかがわって東沢の魅力を再確認し、それを発信する活動を通して、その伝統を守るために協力している人たちの願いに気づくようにする。
学習内容	1「山形県景観出前授業」で景観という視点を学ぶ 2地域（唐松観音・蔵王大権現）にでかけ、その伝統を守っている人たちの思いを知る 3地域の景観、文化、歴史、自然、人を捉えなおし、良さを発掘する 4捉えた良さを磨く、PRする方法を考える 5考えた発信対象に向けてPR活動をする 6全体の活動を振り返り成果を共有する
参考資料 準備品 実施場所等	・「やまがた景観物語100」（株）リンクス出版部 ・唐松山護国寺／最上三十三観音第五番唐松観音 ・蔵土三大神 蔵王大権現

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1～ 4	山形県景観出前授業の講座で学習する 地域の代表的なポイントに向き、維持管理している方の思いを聞く	「景観という新たな視点を学び、今後の学習に生かすことができるようにする。」	(知・技) (態度)
5～ 10	東沢地区を歩き「景観」「歴史」等の視点でお勧めスポットを探す	普段歩いている地区を新たな視点で捉えなおし、東沢地区の良さを再発見できるようにする。	(思・判・表)
11 ～ 13	グループまたは個人で、今後の課題解決計画を立てる 	新たな視点で発見した良さをさらに追求する、または広げるという意識をもたせる	(思・判・表)
14 ～ 20	計画を実行し、東沢地区の良さを知り追求する	見通しをもって活動できるように進捗状況を確認する	(態度)

21 ～ 26	グループまたは個人で、東沢地区の良さの発信対象へのPR方法を決め、準備する	内容と発信対象がずれていないか確認しながら学習を進める	(知・技) (思・判・表)
27 ～ 30	それぞれの発信対象に向けてPR活動をする	オンライン・出向いて・対面で・紙面で・掲示などで多様な方法が取れることを知らせる	(思・判・表)
31 ～ 33	各グループの活動の成果を共有する	東沢地区の良さを再発見できた喜びを共有できるようにする	(知・技)
34 ～ 40	全体の活動をふりかえる	この活動全体をふり返ることで地域の良さを受け継いでいく一員であることに気づかせる	(思・判・表)

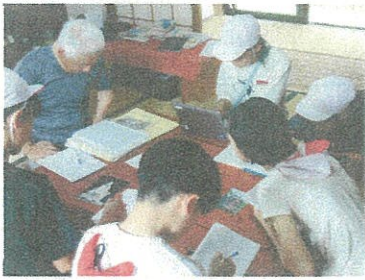
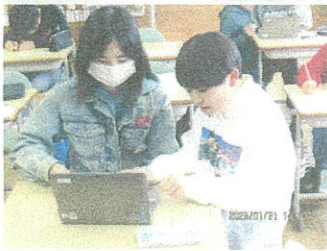
<留意点>

・山形県、山形市の関係部局のご協力をいただき、東沢地区に特化した内容になるよう連携する

② 事業実施報告書詳細

学校名 山形市立東沢小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1～8	東沢小 蔵土大権 現 唐松観音	東沢地区にある景観視 点場について知り、興 味をもつ 県景観出前授業を受講 し「景観」という考え 方を知る 地区内の景観保全ポイ ントと関わる方たちの 思いを知る		「やまがた景 観百選」に選 ばれているの は知っている 景観の保全の ために、「県 」「市」の人 たちがいろい ろ考えている のが驚き
9～ 13	東沢小	地区内の「すてきな場 所」「おすすめのポイ		東沢地区には こんなにたく

14～ 19	萬松寺 熊野神社 養千寺 法来寺 雷神社 妙泉寺 住吉神社	ント」から訪れてみたい場所を選定する 計画を実行し、東沢地区の良さを知り、追求する	  	さんの古い建物があるんだ アボがなかなか取れなくて苦労したよ あんなに遠くまで行ったことがなかった 歴史が古くて難しいな
20～ 25	東沢小	見つけた良さを発信するための準備をする (まとめる・対象を決める・発表方法を決め計画をたてる)	 	やっぱり地区の方に聞いてほしい なるべくたくさんの人に聞いてほしいからコミセンを会場にしよう ポスターを作ってPRしよう おすすめポイントをポケッ

26	東沢小	保護者に発表し、表現方法などについてアドバイスもらう		トティッシュにして来場者にアピールしよう
27	東沢小	アドバイスを生かし、自分たちの発表を改善する		
28～30	東沢コミュニティセンター	学習でお世話になった地域の人や行政の方に自分たちの見つけたおすすめ景観ポイントを紹介する	  	地区の人は来てくれるかな 予想以上に来てくれたからとても嬉しい 地区に住んでも僕たちのように知らないところがあるようだ
31	東沢小	学習をふりかえり、学びをまとめる		発表に対する地域の方のアドバイスをもらってよかった 自分たちの住んでいる地域のすてきなポイントをたくさん知ったのが嬉しかった

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 ・児童の視点と地域の方の思いとをすり合わせていくこと。景観保全のために活動している地域の方の思いに、児童が気付くように仕向けていくこと ・児童が受け身にならないように、児童の思いから出発する活動にすること
(2) 実施にあたり苦労した点 ・学区が広く、児童の徒歩移動には限界があること。時間や距離に阻まれて訪れるのを断念した場所があった。 ・遠すぎる場所を選んだグループは休日を使って調べ学習をした。
(3) 児童の反応 ・行政の方の話を聞いた時には「ふーん」くらいにしか考えていませんでした。実際に出かけて調べると、地区のみなさんに伝わったか気になるし、感想をもらってうれしかった。初めて知ったこともあった。 ・地区のみなさんへの発表の後、「葛松寺に行ってみたい人〜？」と聞いたら思ったよりもたくさんの人に手を挙げてもらえました。 ・法来寺はたまにしか行かないので、どんなことを聞いたらいいか、初めは迷いました。お話を聞いた時、難しい言葉が出てきて大変でした。地区の方に聞いてもらったら自分たちの間違いがわかりました。教えてもらってよかったけどちゃんと調べておけばよかったです。 ・自分が住んでいる他の地域にある神社の歴史をたくさん知ることができた。東沢地区のお寺や神社の歴史がたくさんあった。 児童は初めて知ることが多く、住んでいるからと言ってその土地のことを知っているとは限らず、改めてこの地区の良さを知ることになった。このような経験は、将来、もしもこの土地を離れたとしても、この土地への愛着をもつことにつながると思う。そのような内容の話を、学習でお世話になった地区の景観を保全している方や行政の担当の方にしていただけたのもありがたかった。
(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化 ・赴任したものの、実際にこのように地区内を歩いたりお話をうかがったりする機会はなかなかない。地区の良さを知ると共に、地区の方と交流できたことで、地区への理解と愛着がもてたようである ・地域学校協働活動推進員のコーディネートでたくさんの地区の方にご協力いただいた。地区の方が「学校で子どもたちが何か地域に関心をもって活動しているようだ」と思ってくれるようになった。
(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕 ・今回は6年生の児童が取り組んだが、取り組む学年の経験や発達段階によって、内容も手法も変えていかなければならない。 ・「学区が広い」という本校の特性に、この景観学習はとても合っている。学年やアプローチを変えて、継続していけたらと考える。